

アルミCV、メガソーラーに採用

SFCC・古河産電

ケーブル盗難防止に効果

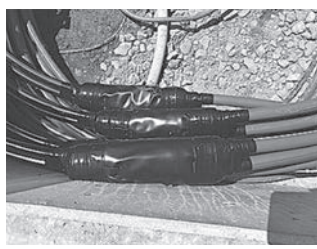


トラフ内での接続処理

SFCCは16日、低圧アルミ導体CVケーブル「らくらくアルミケーブル」が山梨県内のメガソーラー発電所に採用されたと発表した。産業用太陽光発電所建設での省力化、省人化、ケーブル盗難防止策にアルミ導体ケーブルを活用することで裾野を広げ、24年度の売上高20億円を目指す。

この案件では、山梨県内のメガソーラー発電所

銅・アルミ導体の異種異径接続材料



でケーブルの盗難被害が発生し、早期復旧と盗難防止を目的に同社のアルミケーブルが採用された。雨の日が続くなか、接続処理まで含めて工期通りに完了し、予定通りの復電を達成した。

同ケーブルは低コストなアルミ導体を採用し、被覆が青く、銅導体CVケーブルとの識別が簡単のため、盗難防止効果が期待できる。

また、アルミケーブルの特長である軽量、施工のしやすさ、柔軟性は、早期復旧を望むユーザーの作業効率の向上につながった。同発電所で施工を行った電気工業者は、「従来の延線作業はパワーホールを使用していたが、らくらくアルミケーブルを使用することで人力のみで施工を終えた。電線ケーブル自体も軽くて柔らかく、扱いや

すいには驚いた」と述べた。

メガソーラー発電所など産業用太陽光発電所は、敷地が広いうえに無人で、近隣に人家や人通りの少ない立地が多いため、銅線の転売を狙ったケーブルの盗難が絶えない。

盗難されれば、売電収入に大きく影響するため、発電事業者などのユ

ーザーは早期に復旧する必要がある。

